

# 猛炎、灼熱の恐怖

## 真夏に相次ぐ建物火災

# 津消防タイムズ

第45号



↑7月26日、久居本町地内で発生した建物火災

発行 津市消防本部  
〒514-1101  
津市久居明神町 2276

編集 消防総務課  
企画調整室  
TEL 059-254-0353  
FAX 059-256-7755

協力 津市防火協会

火災などの  
お問い合わせ  
☎224-1881  
救急医療情報案内  
☎256-1199



↑7月6日、芸濃町椋本で発生した建物火災

**○久居本町で建物火災**  
七月二十六日、津市久居本町の住宅密集地で建物火災が発生し、消防車二十台、消防隊員七十四人が出動しました。この火災は、鎮火までに約三時間かかる大火事となりました。  
津市消防管内では、火災が多発しており、本年八月二日までに既に六十件、七月中だけでも九件の火災が発生し、そのすべてが建物火災でした。  
一度火災が発生すれば、生命が危険にさらされるだけでなく



↑8月2日、一志町井間地内で発生した建物火災

大切な財産が失われてしまいます。今後、空気が乾燥するにつれ、更に火災が発生しやすくなりますので、より一層火災予防に注意しましょう。(高橋直通)



↑7月21日、乙部地内で発生した建物火災

**地域を守る消防団員の熱い夏！****○三重県消防操法大会に出場**

七月二十五日、三重県消防学校（鈴鹿市石薬師町）で三重県消防操法大会が開催されました。津市消防団からは、小型ポンプ操法の部に安濃方面団、ポンプ車操法の部に美杉方面団が出場し、ポンプ車操法の部で美杉方面団が準優勝を果たしました。

両方面団は四月から本格的な訓練を開始し、週に三回、仕事を終えたあと、夜遅くまで訓練を行い、大会に向けて一生懸命「心・技・体」を磨きました。また、方面団長をはじめとする選手以外の団員も共に汗を流し、支え続けた四か月間でもありました。

両方面団は全国大会への夢を果たすことはできませんでしたが、そこには大きな絆が生まれ、その絆こそが地域を守る力になることは言うまでもありません。安濃方面団、美杉方面団のこれからの活躍に大いに期待したいと思います。（横山博）

**若き救助隊員の熱い夏！****○東海地区救助技術指導会に出場**

八月三日、三重県消防学校（鈴鹿市石薬師町）で第三十九回消防救助技術東海地区指導会が開催されました。指導会には東海三県の七十四消防本部から六六五人が集まり、住民の負託に応えるため、日夜研鑽、練磨した救助技術を披露しました。

津市消防からは、陸上の部の障害突破（中消防署西分署）と引上救助（久居消防署）の二種目に十人の救助隊員が出場し、真夏の日差しが照りつける猛暑の中、訓練で培ったチームワークを最大限に生かし、氣迫溢れる息の合った訓練成果を披露しました。

今後隊員たちは訓練で養った知識、技術をいかになく発揮し、「より安全に」「より確実に」「より早く」をモットーに現場活動できるよう更なる救助技術のレベルアップに努めます。（宮本真二）

## ○津市消防・松阪広域消防 組合合同水難訓練を実施

海や川でのレジャーシーゾンを前に、津市消防と松阪地区広域消防組合は、六月十日、雲出川河口付近で合同の水難救助訓練を実施しました。

この訓練は、両消防機関が雲出川を介して隣接しているため、水難救助事案に対する有事故即応体制と連携の強化を図ることを目的に、三年前から実施しており、今年は両消防の水難救助隊など四十五人が参加しました。

訓練は、松阪市小野江町の下流で数人が乗ったゴムボートが転覆したという想定で開始しました。救助ボートで現場周辺を探索し、隊員が水深約三メートルの川底で行方不明に見立てた



↑橋から降下して救助に向かう隊員

人形を発見すると、ボートに引き揚げ、応急処置をしながら迅速に救急車に搬送しました。

訓練後、中西秀輝津市消防長は「技術の向上はもとより、原点を再確認し、ますます連携を深めてほしい。」と講評しました。(西尾朋也)



↑要救助者に見立てた人形を引き揚げる隊員

## ○各地で水防訓練を実施

本格的な出水期を前に、津市の各地で水防訓練が行われました。津市の水防訓練は、合併後は、大規模な訓練を年一回実施してきましたが、各地域の災害特性を踏まえ、今年から各地域単位で実施しています。

七月四日、メッセウイングみえ(津市北河路町)で行われた津方面団の水防訓練は、津市消防団津方面団、津市自主防災協議会など約四百人が参加して行われました。訓練では、積み土のう工法を実施し、砂を入れる人、土のうを運ぶ人、土のうを積み上げる人などに分かれ、連携よく作業していました。(高橋直通)



→七月四日、津市消防団津方面団の水防訓練の様子



→八月一日、津市消防団久居方面団の水防訓練の様子

## ○サマーフェスタで

### コンサート

八月一日、津市消防音楽隊は「第五回津なぎさまちサマーフェスタ」(津市港町)に参加しました。

夏休みということもあり、子供たちをはじめたくさんの方

市民の方が来場し、賑やかなコンサートとなりました。

演奏の間には、水難事故が多発する時期でもあることから、ライフジャケットの必要性や水難事故に関する講話を交え、事故防止を呼びかけました。(上田隆広)



↑ライフジャケットの着け方を学ぶ子供たち

## ○山林内で実践訓練

六月二十三日、津市芸濃庁舎(芸濃町椋本)で、林野庁近畿中国森林管理局・三重森林管理署職員による山中救急実践訓練が行われました。

山中で起こり得る毒害虫や毒爬虫類による事故や急病等に対応するための応急手当のほか、山中の丈夫な木やつるなどを利用した応急担架の作り方や搬送訓練が行われました。

また、職員は班ごとに衛星電話と携帯型GPS（全地球測位システム）を持参し、衛星電話による一一九番通報訓練も行いました。

参加者は、自分自身はもとより、共に働く仲間のため、終止熱心に訓練に取り組んでいました。（上杉茂郎）



↑木を利用して、けが人を搬送する訓練参加者

## ○暮らしを守る

### 地域の活動を学ぶ

六月三十日、市立成美小学校（久居新町）の四年生九十二人が、津市消防団久居方面団第四

分団の詰所を見学に訪れました。

生徒たちは、消防団員が普段は他の仕事をしながら、火事や災害の時に駆付けたり、定期的な訓練をしたりして、地域の安心・安全を守っていることを学びました。また、消火器の取扱いや消防ホースによる放水体験、地震体験車による地震体験などを行いました。

松下浩己分団長は、「この活動は、十五年続いている。かつて見学に来て入団した団員もいる。今後の担い手づくりにもつなげたい」と述べていました。（森正克）



↑放水体験をする小学生



## ○地域の安全は地域で守る

七月十七日、津市須ヶ瀬町自治会が、同地区の構造改造センターで防災訓練を実施しました。

訓練は「地域の安全は地域で守る」を旨として、自治会員約七十人、津市消防団久居方面団十三人が参加して行われました。訓練では、地震体験車による地震体験、初期消火訓練、応急担架の作り方や心肺蘇生法など、実践しながらの訓練に参加者は真剣な表情で取り組んでいました。

訓練後、林貢自治会長は「近い将来、大地震の発生が危惧されている中、地域のつながりを大切にし、有事の際は協力し合い、被害を最小限に抑えたい。」と述べていました。（勝島直樹）



↑真剣な面持ちで傷病者の手当を行う訓練参加者

## ○海で溺れた親子を 連携して救助

七月一日、海で溺れた親子を救助した男女四人に対して、久居消防署長が感謝状を贈呈しました。

救助活動を行ったのは、其浦友之さん、米川勝己さん、山口光雄さん、妻サトコさんの四人。六月一日、津市香良洲町の漁港で釣りに来ていた五歳の男児が、誤って海に転落し、助けようと海に入った父親も陸に上がれなくなっているのを山口さん夫婦が発見。光雄さんが救助、サトコさんが通報しているところに、釣りから戻ったばかりの其浦さんと米川さんが船で救助に加わり、消防隊員が駆付けるまでに二人を無事に救出しました。



津市香良洲庁舎で田中義久  
久居消防署長から感謝状を受  
け取った山口さん夫妻は「無  
事救助できてよかった。子供  
の顔を見て安心しました。」  
と述べていました。(高橋直  
通)



↑津市香良洲庁舎で行われた感謝状  
贈呈式

○初期消火で表彰状

七月三十一日、白山消防署  
一志分署で初期消火活動を行  
い、火災の被害を最小限にと  
どめた五人に対して白山消防  
署長が感謝状を贈呈しまし  
た。

消火活動を行ったのは、中  
島博さん、妻ひさゑさん、近  
藤光城さん、妻恵子さん、森  
田敦さん。五人は、建物から  
煙が出ているのを発見し、協

力して近くの消火栓からホー  
スを延長し放水しました。火  
災は、迅速な活動で部屋の一  
部が焼けただけで、見事に消  
し止められました。  
表彰を受けた五人は「当地  
区は、毎年防災の日に消火器  
や消火栓の取扱訓練を実施し  
ており、これが役に立ちまし  
た。」と述べていました。(高  
橋直通)



↑感謝状を受け取った五人



○もしも火災に巻き込まれ  
たら、誘導等について

ショッピングセンターや旅行  
先のホテルで、もし火災等の災  
害現場に直面した時、あなたは  
どうやって建物内から逃げ出し  
ますか？一緒にいる家族や友  
人、周りの人たちを守ることに  
できますか？

このような事案は誰もが直面  
する可能性があります。このた  
め、この種の施設には屋外へ避  
難するための誘導灯が設置され  
ていますが、もしもの時に備え  
て誘導灯について少し勉強をし  
ておきましょう。

誘導灯とは建物内において避  
難口やそこまでの通路を教えて  
くれる消防用設備で、次のもの  
があります。

▼避難口誘導灯

緑色の地に避難口であること  
を示すシンボルがあり、最終の  
避難口や各階の階段の降り口に  
設置してあります。

↓避難口誘導灯



▼通路誘導灯

白色の地に避難の方向  
を示すシンボルがあり、廊  
下や曲がり角等に設置し  
てあります。

↓通路誘導灯



誘導灯の中には、フラッ  
シユランプや音声で避難  
口を誘導するものなども  
あり、煙や暗闇の中でも避  
難口が分かりやすいよう  
になつていきます。

小さな子供でも理解が  
できることなので、家族で  
外出された時等に建物内  
に設置されている誘導灯  
に注目してみてくださいいか  
がでしょうか。(前野雄二)





# 住宅用火災警報器を設置していますか？

## ○住宅用火災警報器を

設置しましょう。

火災をいち早く発見して、逃げ遅れなどの死亡事故を防ぐため、消防法等により、すべての住宅に「住宅用火災警報器」の設置が義務付けられています。

## ●機能と設置方法は…

- ・火災の煙や熱を感知して、警報音や音声で知らせます。
- ・すべての寝室に、煙を感知する煙式を設置する義務があります。
- 2階以上に寝室がある場合は階段上部にも設置義務があります。
- ・台所には、熱を感知する熱式を設置すると安心です。
- ・電池式（リチウム電池・寿命10年）が一般的で、住宅内の天井や壁にネジ止めで設置します。

## ●購入方法は…

家電量販店・ホームセンター・消防設備業者などで、四千円程度で販売しています。

# 消火器のリサイクルシステムがスタート

## ○古い消火器を廃棄する時は…

消火器は古くなっても、家庭ゴミとして収集されず、廃棄方法が分からなかったため、そのまま放置され、いざという時に使えなかつたり、時には破裂したりして死傷事故も発生しています。そこで、消火器の安全な回収とリサイクルを推進するため、平成二十二年一月から製造される消火器にはリサイクルシールが貼られるなどの、リサイクルシステムの運用が開始されました。

## ●リサイクルシール付きの

新しい消火器とは…

平成二十二年一月以降に製造された消火器には、リサイクルシールが貼られ、将来、廃棄する際に処理等の費用を徴収されずに消防設備業者に引き取ってもらえます。ただし、ホームセンターでは、現在のところ引き取ってもらえません。（平成二十一年以前に製造の消火器が販売されています。）



## ●今まで家にあった古い消火器を

廃棄する時は…

市内の消防設備業者に引き取ってもらえますが、処理等の費用として千円程度を徴収されます。

・新しい消火器を購入した場合は、ホームセンターや市内の消防設備業者では、古い消火器を無料で下取りしてもらえる場合もあります。

※いずれの場合も、事前に電話して確認してください。（市内の消防設備業者：津市ホームページ↓津市での生活/いざというとき↓その他の消防情報↓火の用心あれこれ/消火器の正しい取り扱いで調べ。又は市内の各消防署へ電話してください。）

## ●廃棄対象の消火器とは…

- ・本体にサビ・損傷・変形がある。
- ・上部の安全ピンがなく、握り手が押し下がり、持つと軽いもの。（使用済の可能性があります。）
- ・揺すってみて、内部の粉末薬剤が固まって動かないもの。

・製造年から八年以上経過したもの。（消火器メーカーでは、安全のため耐用年数を八年としています。）

※消防法では、一般住宅には設置義務がありませんが、もしもの時のため消火器（三千円～四千円）を設置しましょう。

## 特集！消防署紹介 中消防署



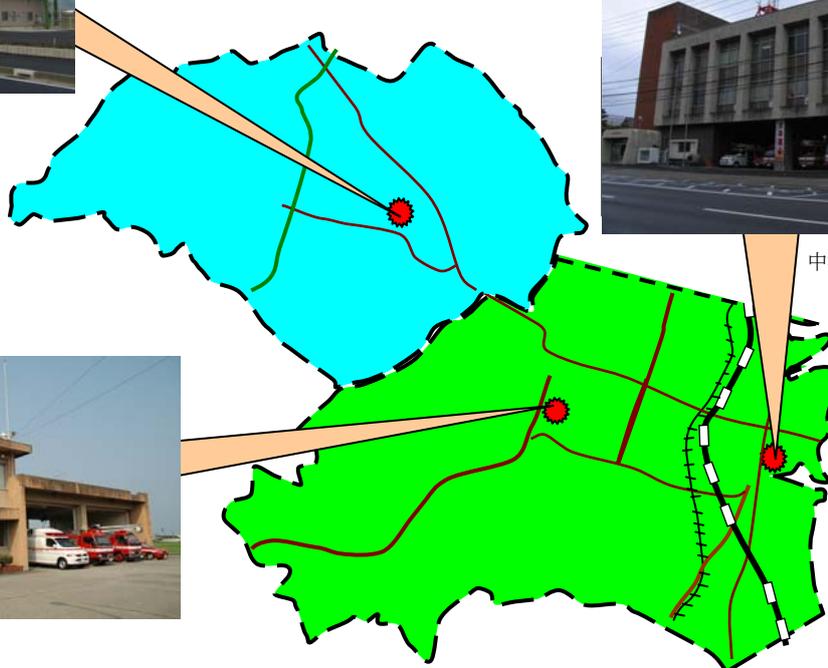
安濃分遣所



中消防署



西分署

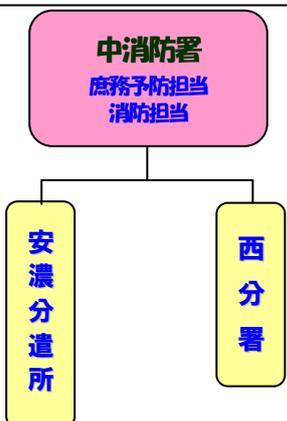


中消防署は津市寿町にあり、この下に一分署及び一分遣所を擁しています。管轄区域は、津市の市街地から田園が広がる安濃町全域となっています。管内の特長としては、東部方面には国や県の行政機関が数多く立地しているほか、中部国際空港と津エアポートラインで結ぶ津なぎさまち、津花火大会やビーチバレー大会が開かれる御殿場海岸、お城公園や津まつり等が開かれるフェニックス通りがあります。西部方面には伊勢自動車道の津インターチェンジがあり、無料化実験区間の始点として利用する車両も大幅に増え、工事が進む中勢バイパスも含め付近の一般道にも渋滞が発生しています。また中勢地方で最大規模の中世・戦国時代の



中消防署

中消防署  
署長 山本卓美



城と伝えられる安濃城跡があり、経が峰を中心とする山間部ではハイカーで賑わっています。現在署長以下七十三人の職員が目指す署風は、「各職員が担当分野で、また社会人として、もう一勝（進歩）する」という自覚と行動を趣旨とするマジックワン（M1）で中消防署の士気の高揚を図っています。



### 平成二十二年度緊急消防援助隊近畿ブロック合同訓練及び平成二十二年度近畿府県合同防災訓練

災害対策基本法、消防組織法、三重県地域防災計画及び「近畿二府七県危機発生時の相互応援に関する基本協定」に基づき、近畿府県の防災関係機関、関係団体、企業並びに地域住民参加の下、総合防災訓練が実施されます。

消防機関においては、平成七年一月十七日兵庫県南西部地震（阪神・淡路大震災）を教訓に創設された緊急消防援助隊の訓練を実施します。これは、大規模な地震災害や特殊災害等の広域災害時に都道府県の枠を超えて、迅速かつ効率的に人命救助等の応援活動を実施することを目的としており、今回は、津市及び松阪市が広域的に被災したという想定で実施されます。

訓練当日、津市消防は被災地消防本部として、近畿府県の消防本部（局）から応援隊として車両約百四十台、隊員約七百人の参加を得て、訓練を実施することとなります。

この場で津市が被災した場合の検証や訓練内容をもとに、地震災害等の大規模な広域災害時の実効的な受援体制確立を図ります。（平子泰史）

#### 実施日時

○緊急消防援助隊近畿ブロック合同訓練 十月三十日（土）八時三十分～三十一日（日）十二時  
○近畿府県合同防災訓練 十月三十一日（日）八時三十分～十二時

#### 訓練会場

○ニューファクトリー久居工業団地（戸木町・森町）  
○メッセウイングみえ（北河路町）  
○三重県庁（広明町）  
○津市消防本部（久居明神町）  
○松阪市広域消防組合消防本部（松阪市川井町）  
○伊勢湾ヘリポート（雲出鋼管町）



↑昨年、福井市で行われた緊急消防援助隊の訓練の様子

## カメラアングル



→七月二十五日、新町地区自主防災訓練の様子



→八月五日、久居消防署で救急業務功労者に表彰が行われました。

#### ☆ 主な行事予定 ☆

- ◆ 九月五日（日） 救急フェア（マイカル津サテイ）
- ◆ 九月十二日（日） 上級救命講習（中消防署）
- ◆ 九月十九日（日） 白山消防署林野火災合同訓練（白山町上ノ村）
- ◆ 十一月九日（火）～十一日（木） 防火管理者講習会（三重県総合文化センター）

#### ☆ 音楽隊派遣演奏予定 ☆

- ◆ 十月十日（日） 第六回全国消防音楽隊フェスティバル（奈良市）
- ◆ 十一月六日（土） 橋北地区文化祭
- ◆ 十一月十四日（日） 一志町ふれあい祭り
- ◆ 十一月二十一日（日） 新町フェスタ
- ◆ 十一月二十八日（日） あのうちぼかぼか祭り

☆秋の全国火災予防週間☆  
11月9日～15日  
平成22年度全国統一防火標語  
「消したかな」あなたを守る 合言葉

～平成22年7月末日までの災害～	
火災	59件 (57件)
救急	6,899件 (6,496件)
救助	69件 (90件)
() 内は前年同期	

#### ○編集後記

今年の夏は非常に暑く、日本各地で猛暑日を記録し、熱中症で救急搬送されるニュースが多く見られました。九月に入りましたが、依然として暑い日が続いていますので、お体には十分気を付けていただきたいと思ひます。

さて、関東大震災が起きた九月一日を防災の日としています。この日は、全国各地で地震などによる大規模災害を想定した訓練が実施されましたが、みなさんは災害に対する備えはできていますか？非常持ち出し袋の準備や家具の固定は済みでしょうか？また近年は、緊急地震速報や災害時伝言ダイヤルなどの地震に関する新しい対策が構築されてきています。一番大切なことは備える心であり、それを実行することではないでしょうか。これを機に御家族の皆様でもう一度、確認してみたいかがでしょうか。（高橋直通）